

## 【No.1】長期研修サポートコースを実施しました!【担当:企画情報室】

事業名:未来の漁村を支える人づくり推進事業

概要:国の長期研修制度の受講生同士が交流し、意見交換の場を設けることで、研修や就業に対する意欲の向上、技術習得の効率化を図るとともに、受講生の心理的なサポートを行うことを目的に、10月10日(金)に天草市役所牛深支所にて、初めてとなる長期研修サポートコースを開催しました。

研修ではグループ討論を行い、漁業種類は異なるものの、同じ長期研修生として共通の課題や現状を共有することができました。研修生からは今後も同様の研修を希望する声があり、当センターでは、今後も引き続き、担い手確保に向けた研修を開催していきます。



写真① 長期研修サポートコースの様子

## 【No.2】天草拓心高校生を対象とした水産食品加工場見学を実施しました!【担当:企画情報室】

事業名:未来の漁村を支える人づくり推進事業

概要:将来の担い手育成・確保に繋げる取組みの一環として、10月15日(水)に、天草市の熊本県海水養殖漁業協同組合栖本事業所(以下、「海水養殖漁協」という。)及び宇土市のカネリヨウ海藻株式会社の工場見学を行いました。生徒は、HACCP認証工場における品質管理や機械化された作業工程、安心・安全に対する企業の考え方など、県内企業の実践的な取組みを直接見聞きすることで、水産食品加工業への理解を一層深めることができました。



写真② HACCP認証工場見学  
(海水養殖漁協)



写真③ 品質管理の説明  
(カネリヨウ海藻株式会社)

### 【No.3】天草拓心高校生を対象とした現地実習を行いました!【担当:企画情報室】

事業名:未来の漁村を支える人づくり推進事業

概要:10月20日(月)及び11月4日(火)に天草市牛深町にて、スマート水産業に関する現地実習を行いました。当日は、漁業者が講師となり、生徒に対して魚類養殖業の仕事の内容や操業方法等について説明していただきました。また、導入しているスマート機器についても実演を交えながら、導入による省力化等のメリットについて熱心に説明していただきました。

生徒は、授業では経験できない実作業を体験することができ、漁業者にとっても、将来の担い手候補に、水産業の魅力を直接伝えることができる良い機会となりました。

生徒からは、「養殖業界への就職に興味を持った」・「水産業のイメージが変わった」等の声がありましたので、当センターでは、今後も引き続き、担い手確保・育成に向けて、高校と連携した取組みを行っていきます。



写真④ 魚類養殖における出荷作業体験



写真⑤ 漁船漁業における漁具の見学

### 【No.4】赤潮対策勉強会を開催しました!【担当:養殖研究部、浅海干潟研究部、企画情報室】

事業名:赤潮総合対策試験(海の再生及び環境対策特別委員会関連事業)

概要:10月28日(火)及び11月6日(木)に天草市本渡地区・御所浦地区の魚類養殖業者を対象に天草広域本部と連携して開催しました。当センターからは、「今年の有害赤潮の発生状況」・「珪藻を活用した有害赤潮の発生抑制試験及び赤潮発生中も給餌可能な改良餌料試験の状況」の進捗について報告しました。また、意見交換では、放出時の珪藻の動向や現場での飼育状況等について、板倉特別研究員を交えた活発な議論が行われました。今後も、現場の状況や課題を把握しながら、赤潮対策に係る研究に反映させていきます。

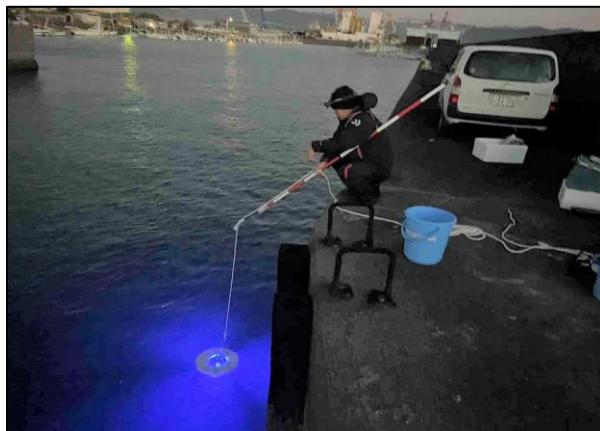


写真⑥ 赤潮勉強会の様子  
(天草市御所浦地区)

## 【No.5】アユライトトラップ調査を実施しています!【担当:資源研究部】

事業名:試験調査事業(内水面モニタリング調査事業)

概要:資源研究部では、球磨川河口周辺海域における稚アユの現存量を把握し、翌年春の遡上量の予測に繋げていくことを目的に、ライトトラップを用いた稚魚採捕調査を10月末から実施しています。調査は日没から約30分後を目安に開始し、トラップを1回あたり10分間投入後、トラップの灯火に誘導された稚アユを採捕します。調査は2月まで行い、今後は遡上尾数や餌料環境等との関係性を検討していきます。



写真⑦ ライトトラップ調査の様子



写真⑧ 採捕した稚アユ

## 【No.6】中間育成していたタイラギを3県へ還送しました!【担当:浅海干潟研究部】

事業名:有明海・八代海再生事業(海の再生及び環境対策特別委員会関連事業)

概要:本県では、国や有明海沿岸3県(長崎県、佐賀県及び福岡県)と協調し、豪雨等による塩分低下のリスクが比較的小さい本県において、3県で種苗生産されたタイラギ着底稚貝を受け入れ、中間育成試験に取り組みました。

年々、中間育成の方法を改善したことにより、今年度は過去最高の生残となりました。殻長5mmから50mm以上まで成育させた稚貝については、10月～11月にかけて3県への還送を行い、各県、母貝団地の形成に向け、活用されています。



写真⑨ 還送に向けた準備作業



写真⑩ 還送したタイラギ稚貝

**【No.7】季別運転がノリ養殖に与える効果を検証しています!【担当:浅海干潟研究部】**

事業名:赤潮総合対策試験(海の再生及び環境対策特別委員会関連事業)

概要:浅海干潟研究部では、熊本市松尾地先において、下水処理場の季別運転によって海域へ供給される栄養塩が、ノリ色落ち抑制効果海域にどのような影響があるかを検証するため、10月から現場でのモニタリング調査を行っています。栄養塩濃度の変化やノリ葉体の色調の変化、珪藻プランクトンの動態等について、月2回の頻度で調査を行っており、季別運転による栄養塩供給がノリ養殖に与える効果等を評価していきます。



写真⑪ 調査風景



写真⑫ 調査風景

**【No.8】高水温等に強いノリの品種開発試験を行っています!【担当:浅海干潟研究部】**

事業名:環境変化に対応したノリ養殖技術の開発(海の再生及び環境対策特別委員会関連事業)

概要:浅海干潟研究部では、環境変化による生産量の減少や品質低下に対応するため、新たなノリの品種開発試験に取り組んでいます。11月には、高水温耐性の候補株や生長性が良い高生長の候補株を用いて、当センターの陸上水槽での培養試験を開始しました。今後は、培養試験で各候補株の生長性等を確認し、優良個体からフリー糸状体(ノリの胞子)を作成していく予定です。



写真⑬ 候補株の採苗状況



写真⑭ 陸上水槽での培養試験

**【No.9】ブリ親魚の安定した養成及び採卵技術の開発に取り組んでいます!【担当:養殖研究部】**

事業名:ブリ親魚養成・採卵技術開発試験

概要:養殖研究部では、ブリ人工種苗を県内養殖業者へ安定的に供給する体制づくりに向けて、ブリ親魚養成及び採卵技術の開発試験を行っています。11月には、県内養殖業者から親魚を約30匹導入し、当センターの水槽で馴致を開始しました。今後は、水温や水面照度を調整することで成熟を促し、2月以降の採卵に向けて準備を進めていきます。



写真⑯ 親魚の積み込み

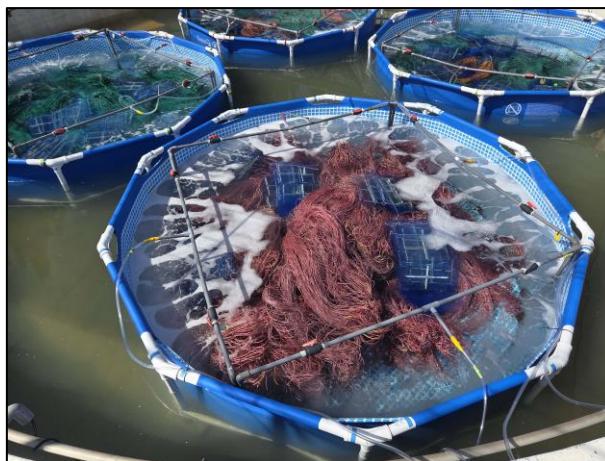


写真⑯ 導入された親魚

**【No.10】ヒトエグサの人工採苗網の配付を行いました!【担当:食品科学研究所部】**

事業名:海藻類総合対策事業(海の再生及び環境対策特別委員会関連事業)

概要:食品科学研究所部では、ヒトエグサ養殖の安定生産のため、人工採苗網の作成に取り組んでいます。10月には当センターの屋外水槽にてノリ網にヒトエグサの遊走子(種)を付着させる採苗試験を行いました。その後は、付着させた遊走子を育てる育苗期間を経て、11月に、順次生産者への配付を行いました。今後は、定期的に配付した網の生育状況等の確認を行っていきます。



写真⑰ 採苗試験の状況



写真⑱ 育苗時の状況